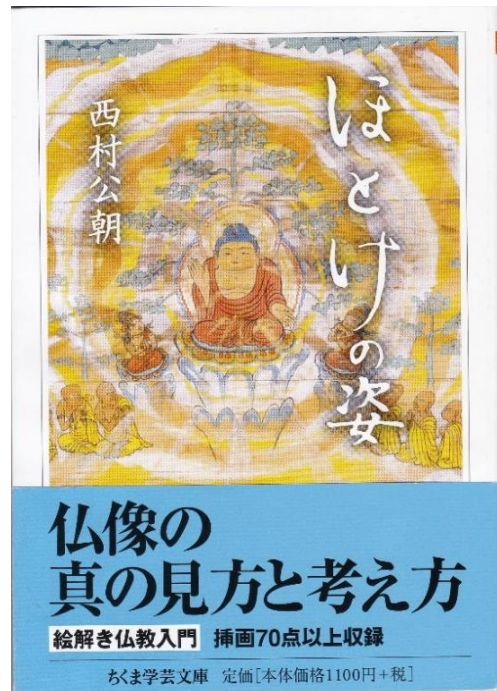


今回のふろたん技研レポートは、日本で出版されている本でミャンマー語版にしてミャンマーに届けたいと考えている2冊の本の紹介です。

1. 西村公朝作「ほとけの姿」改訂版

1冊目の本は、2019年3月21日付の「ふろたん通信」No.29でも紹介しましたが、今年2月に大成栄子さんから送られてきたちくま学芸文庫から出版された西村公朝作「ほとけの姿」改訂版です。

この本の最終ページには「本書は1990年に毎日新聞社から刊行されたものに、著者（西村公朝）が遺した朱入本を元に加筆修正を施したものである」と書かれていますが、その1990年版の公朝のあとがきには「わたくしが最も強調したかったことを語り、しかも、それが子どもたちにもわかるようにとさし絵70枚を描き加えておきました。この造本こそわたしが長い間考えていた形です」と書いてあるのです。



「今まで書いた本の中で英語に翻訳するとしたらどれがいい？」2000年春にお父上に尋ねた（大成）栄子さんの一言で始まった改訂版の発行、朱入本を遺して3年後に亡くなられた公長さん、「通信」No.29には「英語版が実現出来たら、その次はぜひミャンマー語版も…！」と書きました。

大成浩・栄子ご夫妻とは古くからのお付き合いで、2015年8月の第3回ふろたんインタビュー「天空の山と祈りの造形」にもご登場いただき、高尾駅のホームにある彫刻家浩さんの作品・高尾山薬王院天狗面像の話なども交えながら、信仰の対象としての仏像と彫刻としての仏像の概念が組み合わさった「祈りの造形」のお話を伺いました。

ミャンマーは上座部仏教（小乗仏教）、日本は大乗仏教の違いはありますが、仏像修理に一生を捧げようと、若くして得度して愛宕念仏寺のご住職も務



めながら、国宝や重要文化財の修復・研究に携わった西村公朝さんの生涯は、日本からミャンマーに届けたい「ほとけの姿」そのものだと思います。

2. 「井上ひさしの子どもにつたえる日本国憲法」絵；いわさきちひろ

もう1冊の本は、公長さんが亡くなられてから3年後、今から13年前の2006年7月に講談社から出版された「子どもにつたえる日本国憲法」です。井上ひさし著・絵いわさきちひろの本で、帯には「憲法ってなあに？憲法のここを絵本＋お話で」と書かれています。

私がこの本に出合ったのは2018年7月安曇野のちひろ美術館の売店、初めて手にした時思ったのは、この本をミャンマー語訳の絵本にしてミャンマーの子供たちに届けたいということでした。

「ほとけの姿」は筑摩書房のちくま学芸文庫でしたが、学芸が付かないちくま文庫の方では亡くなられた色々な作家のベストエッセイシリーズを出しています。

今年の6月編者井上ユリで「井上ひさしベストエッセイ」が出版されました。分厚い文庫本でテーマ別に多くのエッセイが網羅されています。最初のテーマは「お話をつくる人が好き」、最後のテーマが「むずかしいことをやさしく」で「心の内昭和は続く」に始まる戦争にかかわる九つのエッセイが並んでいます。最後の9番目のエッセイが「子どもにつたえる日本国憲法より」で、作者のはじめにと編者のあとがきに挟まれた変わったカタチで載っているのが、この国のかたち（前文）ともう二度と戦（いくさ）はしない（第九条）、締めページらしくここだけ活字も大きくしています。

昨年10月のふろたん技研レポート Vol.2 に、2014年12月8日付毎日新聞の記事「改憲 少数民族と協力」を載せ、初来日した民主化運動の指導者ミンコーナイン氏が講演で「2015年の総選挙は最後の目標ではなく停車駅にすぎない、憲法をどの程度変えられるかが非常に重要なポイント」と述べていることを紹介しましたが、未だに軍政色が残っているミャンマーの憲法は、日本の憲法問題とは全く異なる時間がかかる難しい課題を抱えているのです。むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく伝える「日本の憲法のここ」は、ぜひミャンマーの子供たちに届けたい本です。

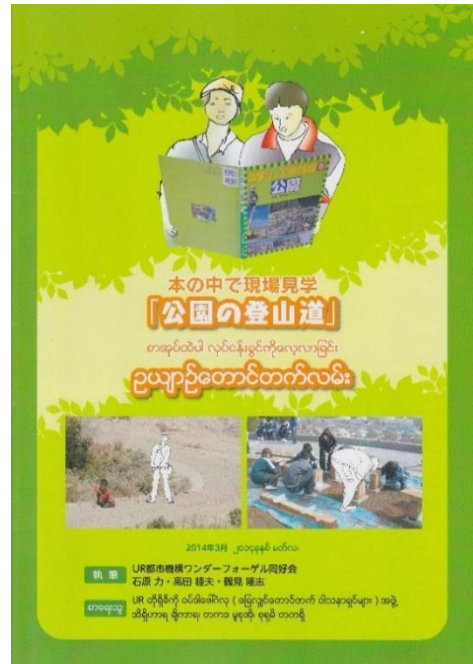


3. ミャンマー語版の出版に向けて

出版物ではありませんが、日本語とミャンマー語併記の子ども向けの小冊子を作ったことがあります。

ほるぷ出版が一般の人たちがめったに見ることのできない工事現場をシリーズで取材して紹介する少年・少女向けの本を発売していて、タワー、トンネル、ダム、橋、線路、港、道路と続き、2013年3月の第8巻の「公園編」では埼玉県飯能市の龍崖山公園の工事現場が取り上げられていました。

2013年3月はURワングル同好会設立40周年記念ミャンマー・ビクトリア山遠征登山日、その時に見たビクトリア山に向かうカンペレ村の道路で工事現場の仕事を手伝い、路盤の碎石を並べている少年の写真を表紙に載せた「本の中で現場



見学・公園の登山道」が、URワングル同好会とふろんていあタウン工房設立準備室が作成した小冊子です。ほるぷ出版の本を取り上げながら「飯能・自然の回廊」でのルート整備活動を紹介し、山の自然を守り育てることの大切さを子供たちが学ぶようにと考えて編集しました。恵比寿のミャンマー料理店「びるまの豎琴」のモーココさん・佐野さんの協力を戴き日本語・ミャンマー語併記になっています。

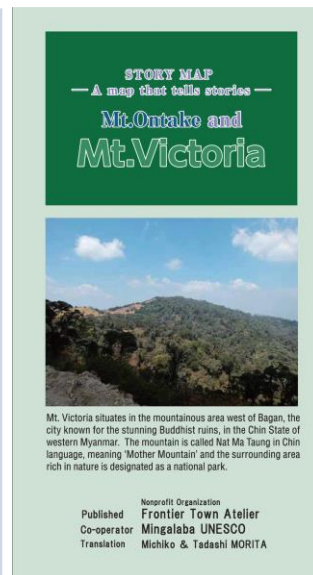
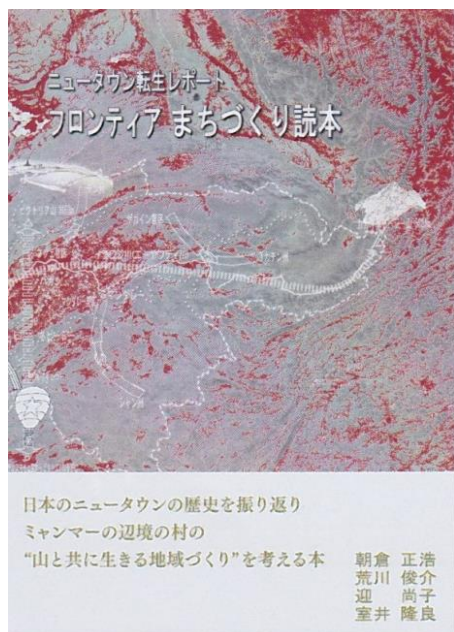
裏表紙には日本の国立公園分布図も載せ、翌2014年3月のビクトリア山第2次調査隊が、ミャンマーのナマタン国立公園事務所に届けました。

- 「ふろんていあタウン工房」の定款には発足当初から NPO 法人の収益事業として
- (1) 地域産業育成モデル試作品の販売事業 と
 - (2) 計画・マニュアル図書等の編集・出版事業 を掲げており、
- (1)の試作品販売事業はまだ実績がありませんが、
- (2)の編集・出版事業では

「ニュータウン転生レポート・フロンティアまちづくり読本」と「ストーリーマップー語りかける地図ー御嶽山とビクトリア山」の出版・販売をしています。

「フロンティアまちづくり読本」は、帯に書かれているように日本のニュータウンの歴史を振り返りミャンマーの辺境の村の“山と共に生きる地域づくりを考える本”、
「ストーリーマップー語りかける地図」は日本の御嶽山とミャンマーのビクトリア山が裏表になった日本語版・英訳版合体で、載っているビクトリア山登山ガイドマップには、

登山口の手前で北上するカンペレマッタビロードが太平洋戦争末期の悲惨な記憶として語り継がれてきたインド・インパールに至ることも書き込んであります。



“子どもたちにもわかるようにと書いた絵解き仏教入門の本”と“子どもにつたえる日本国憲法の絵本” ミャンマー語版を届ける2冊の本の出版に向けて活動開始！

「フロンティアまちづくり読本」と「ストーリーマップ」はどちらも自ら編集しての自費出版でしたが、今度は既販の出版物のミャンマー語版への翻訳・編集・出版、今迄のように行きません。どんな手順で取り組んだらいいか、目下思案中です。

“平和な世界を求めて今を生きるために「宗教」と「憲法」を正しく理解することはとても大切なこと” “戦争の悲惨な記憶も語り継ぐ” “こどもに絵本を届ける活動” “辺境の村の子供たちにも届く寺子屋運動” 等々… 色々なキーワードが頭をよぎります。

この活動は、「ミンガラバー・ユネスコクラブ」「今泉記念ビルマ奨学会」「まちナビ倶楽部」等、今迄「しろんていあタウン工房」の活動に色々協力頂いた団体との連携体制で進めたいと考えています。筑摩書房さんからのアドバイスは「ミャンマーでは翻訳出版がビジネスとして成立しないため、現地の出版事情に詳しい方を介して、出版社を探す、というやり方以外今のところ無いかもしれません」とのこと、多くの方の協力をいただきながらミャンマーの出版社からの出版をベースに考えて進めてみようと思っています。

暫くは試行錯誤が続きそうですが、愚公移山で取り組みます！